

道徳科 学習指導案

平成30年1月29日（月）第3校時（5の2教室）2年2組 指導者

I 主 題 あたたかいところ

II 考 察

1 主題観

(1) 育まれる主な資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性等

幼い子に優しく接しようとする態度

①知識・技能

幼い子に優しく接することのよさについての理解

②思考力・判断力・表現力等

幼い子に優しく接することについての自己の考え

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

B 主として人との関わりに関すること

7 親切，思いやり〔第1学年及び第2学年〕

身近にいる人に温かい心で接し，親切にすること。

(3) 主題や教材の価値

本主題は「親切，思いやり」の内容項目のうち，幼い子に優しく接することのよさについて考える学習である。その価値は以下のとおりである。

幼い子に優しく接することは大切である。なぜなら，そうすることで相手がよい気持ちになるとともに，相手の喜びを自分の喜びとして感じられるからである。そして，このような態度を身に付けていくことは，よりよい人間関係を築くことにつながる。しかし，発達段階から，この時期の子どもたちは自分中心の考えから脱却しきれていないため，相手のことよりも自分の思いを優先してしまうことがある。そのため，幼い子に優しく接することのよさについての理解をより深めることが大切となる。

子どもたちの多くは，困っている1年生に優しく声をかけたり，1年生のために遊具を譲ったりする等，幼い子に優しく接しようとする気持ちをもって生活することができている。しかし，自分のことを優先してしまい，結果として幼い子に優しく接することができないことがある。このような子どもたちが，幼い子に優しく接することのよさについて考えることは，自分が置かれた状況に左右されることなく，幼い子に優しく接しようとする態度を養うことにつながる。

そこで，教材「とくべつなたからもの」（光文書院）を使用する。教材の内容及び価値は，以下のとおりである。

主人公のくまくんは、穴に落ちて泣いている小さなねずみの子に出会う。ねずみの子を抱えて穴から上がろうとするが、拾った葉っぱやどんぐりのたからものを詰めたかばんが邪魔で、上手くいかない。主人公は、思い切ったからものを捨て、無事にねずみの子を助け出す。その後、ねずみの子から手渡された一つのどんぐりを、主人公は「とくべつなたからもの」と言って友達に紹介をする、という内容である。

主人公が、一生懸命集めたたからものを思い切って捨て、幼い子に優しくしたことについての感想や疑問を話し合うことで、子どもたちは主人公を自分に置き換え、幼い子に優しく接することの判断についての問題意識を高めることができる。また、たからものを捨てても、幼い子に優しくした場合とそうしなかった場合との主人公とねずみの子の気持ちを、対比しながら話し合うことで、幼い子に優しく接することのよさに気付くことができる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、3年「親切とおせっかい」での、相手の置かれている状況と気持ちを考えて親切にすることの大切さについて考える学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちはこれまでに、2年「つたわった気もち」において、相手の気持ちを考えて親切にすることのよさについて考える学習をしてきた。この学習で明らかになった子どもたちの実態及び本主題を進めるにあたっての指導方針は、以下のとおりである。

- ① 親切にするためには、相手の気持ちになって考えることが大切であることを理解してきている。このような子どもたちが、幼い子に優しく接することで相手がよい気持ちになり、それが自分の喜びにもなることを理解できるように、自分のことよりも幼い子のことを考えて優しく接することの判断を問う学習課題を設定する。
- ② 相手の気持ちを考えて親切にすることについて、自分との関わりで、多面的・多角的に考えることができている。このような子どもたちが、幼い子に優しく接することについて、自分との関わりで、多面的・多角的に考えられるように、たからものを捨てても優しくした場合とそうしなかった場合との主人公とねずみの子の気持ちを話し合う活動を設定する。
- ③ 相手の気持ちを考えて親切にしようとする態度を養ってきている。このような子どもたちが、幼い子に優しく接しようとする態度を養えるように、学習したことを自己の生き方と結び付けて学習の成果の振り返りをする「満足度」の観点を提示し、満足度を表す「心のライト」と、その理由を記述する学習プリントを用意をする。

Ⅲ 指導計画 ※Ⅲについては、別紙参照

Ⅳ 本時の学習

- 1 ねらい 自分よりも幼い子のことを考えて優しく接することの判断とその理由について話し合うことを通して、幼い子に優しく接しようとする心情を養う。
- 2 準備 場面絵 演示用の道具 ネームマグネット 学習プリント
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点

1 教材の主人公の行為についての感想や疑問を話し合い、学習課題「たからものを無くしても、ねずみの子を助けるか。」をつかむ。

- ・小さい子には、いつも優しくできているよ。
- ・くまくんは、自分のたからものを捨ててねずみの子を助けたのだな。
- ・自分は、ねずみの子を助けるよ。でも、そのためにたからものを捨てるのは、少し嫌かもしれないな。

2 学習課題の解決に向けて話し合う。

- ・優しくした方がよいと思う。そうしないと、ねずみの子がかわいそうだからだよ。
- ・くまくんは、たからものを捨てたのは悲しい気持ちだと思うけど、ねずみの子は優しくされてうれしい気持ちだし、くまくんもねずみの子が喜んでくれてうれしいと思うな。捨てなかったら、たからものがあってもっと悲しい気持ちだと思う。
- ・ねずみの子がうれしい気持ちになるのは、まだ小さくて一人ぼっちだと怖かったと思うから、助けてもらおうとすごく安心すると思うからだよ。
- ・くまくんは、たからものを捨てるときは迷ったけれど、喜んでるねずみの子を見て、優しくしてよかったと思っていると思うな。
- ・友達の考えを聞いてみて、たからものが無くなるのは嫌だけど、でも小さいねずみの子を放っておけないし、優しくしたら相手が喜んでくれてうれしいと思うから、優しくした方がよいと思う。

3 学習の成果の振り返りをする。

- ・心のライトは少し光ったな。たからものを無くすのは嫌だけど、優しくすると相手が喜んでくれて、自分もうれしくなるから、小さい子が困っていたら優しくしたいと思ったからだよ。

○本時にねらいとする道徳的価値の方向付けができるように、幼い子にいつでも優しくすることの可否を問いかける。

○教材「とくべつなたからもの」の内容を把握できるように、教材の内容を演示しながら範読し、登場人物の行為や場面の様子を問いかける。

○幼い子に優しく接することの判断についての問題意識を高められるように、たからものを捨ててねずみの子を助けた主人公についての感想や疑問を学級全体で話し合うよう促す。

○学習課題に対する考えとその根拠を学級全体で共有できるように、ネームマグネットで学習課題に対する自分の立場を表しながら、考えたことを発表するよう促す。

○幼い子に優しくすることのよさを多面的・多角的に考えられるように、たからものを捨てて優しくした場合とそうしなかった場合との主人公とねずみの子の気持ちを問いかける。

○自分の生活経験や価値観と照らし合わせて考えられるように、発言の際には根拠を問いかける。

○幼い子に優しく接することのよさについての理解を深められるように、自分の行為に対する主人公の後悔の有無を問いかける。

○幼い子に優しく接することのよさについての理解を基に自分の考えの変容や深まりに気付けるように、再度ネームマグネットを用いて自分の立場を示すよう促し、その理由を問いかける。

評価の視点

幼い子に優しく接することのよさについて、多面的・多角的に考えたことや、自分との関わりで考えたことを、発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント>

○本時に学習したことを自己の生き方と結び付けて学習の成果の振り返りができるように、満足度を学習プリントの「心のライト」に表し、その理由を記述するよう促す。

○これからの生活への意欲をもてるように、生活の見通しを具体的にもてた子どもを賞賛する。

指導計画（全1時間）

ね ら い	自分のことよりも幼い子のことを考えて優しく接することの判断とその理由について話し合うことを通して、幼い子に優しく接しようとする心情を養う。
教材	とくべつなたからもの（光文書院）
主題 構成	導入では、自分と比べながら、教材の主人公が自分が集めたたからものを捨ててねずみの子を助けたことについての感想や疑問を話し合うことで、幼い子に優しく接することの判断についての問題意識を高めることができる。展開では、たからものを捨ててもねずみの子を助けた場合と、そうでない場合の主人公とねずみの子の気持ちを対比して考えることで、幼い子に優しく接することで、相手がよい気持ちになり、それが自分の喜びにもなることに気付くことができる。
導入	○教材の主人公の行為についての感想や疑問を話し合い、学習課題「たからものを無くしても、ねずみの子を助けるか。」をつかむ。
展開	○学習課題の解決に向けて話し合う。
終末	○学習の成果の振り返りをする。
他の 教育 活動 との 関連	・異年齢集団活動や日常生活の中で、1年生と一緒に活動する場面。